

拠出金・基金
の名称

ICAOアジア太平洋地域航空安全情報分析・共有実証事業に対する拠出金

種 別

イヤマークのみ 一部イヤマーク

【拠出先の国際機関名】国際民間航空機関(ICAO)

【所管官庁担当局課・室名】国土交通省航空局安全部安全企画課

【当該任意拠出金の目的・用途等】

地域における航空安全情報の分析と共有は、地域全体の安全を底上げし、我が国の航空会社や旅客の安全性を向上することが期待される。平成25年の第38回ICAO総会において、ICAO地域航空安全グループ(Regional Aviation Safety Group:RASG)に対して、それぞれの地域内において航空安全情報の共有及び分析プログラムとそれを可能とするシステムを構築することを奨励された。

RASGアジア太平洋地域会合は、米国の事例を参考として、本格的なシステム構築に先立ち、アジア太平洋地域における航空安全情報の分析及び共有に係る3年間の実証事業の実施を承認した。

本拠出金は本実証事業に使用するものである。

【最近3年間の我が国支払額及びODA率】

単 位	邦 貨 (千 円)	外貨1 (千米ドル)	外貨2 (千)	レ ー ト	ODA率(%)
平成29年度	5,500	500		1米ドル=110円	0
平成28年度	-				
平成27年度	-				

【当該任意拠出金等の意義、成果等に関する我が国としての評価】

ICAOが推進している、地域における航空安全情報の分析と共有は、国際航路が多数就航する我が国にとって、地域全体の安全を底上げし、我が国の航空会社や旅客の安全性を向上するために不可欠であることから、アジア太平洋地域における先進国の一つとして本実証事業に参加し、将来の本格的なアジア太平洋地域における航空安全情報の分析及び共有プログラムを構築するためのイニシアチブをとる必要があると考えられる。

また、我が国は、平成26年度の航空安全プログラム(SSP)導入以来、事故・重大インシデントと義務報告の分析及び自発報告制度の提言などによって、業務提供者と共に航空の安全を推進している。本実証事業は、我が国の経験や知見をアジア太平洋地域における安全情報共有に反映させるとともに、米国で行われている先進的な分析手法やノウハウのフィードバックを得ることができる機会でもあることから、支援を行うに相応しいといえる。

【備考】